

がん、幹細胞狙い再発防ぐ

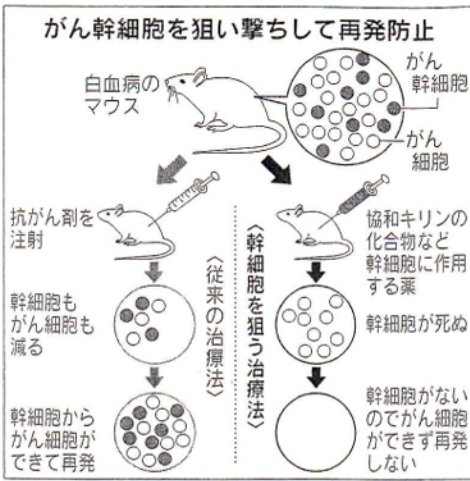
「元凶」の研究 相次ぎ成果

「がん幹細胞」と呼ぶ細胞の研究で成果が相次いでいる。国立がんセンターと協和発酵キリンは白血病のがん幹細胞の構造を解明し、マウスの実験ではこの細胞を特殊な化合物で死滅させることに成功した。東京医科歯科大学も胃がんのがん幹細胞を見つけた。がん幹細胞はがんを引き起こす元凶と考えられ、研究成果はいずれもがんの根治薬の開発につながりそうだ。

がんセンターと「白血病」で死滅 協和発酵キリン

東京医科歯科大 胃がんでも発見

国立がんセンター研究 幹細胞。急性骨髄性白血病の北林一生部長らが発病は治療しても再発する見し構造を解明したのは、場合がある。研究チームはこのがん



▼がん幹細胞 遺伝子の変異によって生じるがんの最初の細胞。自己複製して無限に増える。がん細胞はがん幹細胞が分裂してきたもので、何度か分裂すると死ぬが、がん幹細胞はなかなか死ななず、がん再発の要因とみられる。

がん幹細胞は1997年に白血病で見つかり、乳がんや悪性脳腫瘍にも存在することが分かった。現在は肝臓がんや胃がんなど他のがんでも研究が進む。がん幹細胞を標的にできれば、根治薬が実現すると考えられている。

幹細胞を白血病のマウスから取り除き、がん細胞も死滅させることに成功した。がん幹細胞を標的とした治療で一定の効果を確認できたのは初めてという。

このがん幹細胞は表面

研究チームは協和発酵キリンが開発したM1C SFRの働きを妨げる化合物を白血病のマウスに注射した。がん幹細胞が

幹細胞を白血病のマウスから取り除き、がん細胞も死滅させることに成功した。がん幹細胞を標的とした治療で一定の効果を確認できたのは初めてという。

このがん幹細胞は表面

研究チームは協和発酵キリンが開発したM1C SFRの働きを妨げる化合物を白血病のマウスに注射した。がん幹細胞が



死滅した結果、がん細胞もなくなった。治療に使われている抗がん剤を与えたマウスに比べ生存期間が3倍に延びた。

国立がんセンターの北林部長は「がん幹細胞をたたくことで再発を防ぎ根治につながる」とみている。今後、化合物を改良して治療薬の実現を目指す。

東京医科歯科大学の深町博史講師らは、胃がん

にもがん幹細胞があることを確認した。患者から採取した腫瘍(しゅよう)の一部を免疫機能のほとんどないマウスに移植。マウスにできた腫瘍を取り出し分析した。構造の解明を急ぐ。

横浜市立大学の谷口英樹教授らは大腸がんのがん幹細胞と考えられる細胞の特徴の研究で成果を上げた。すでに分かっている細胞の目印(たんば

く質)のほかに、正常な腸の上皮細胞の表面にあるたんばく質も多いことを突き止めた。研究チームは「正常な幹細胞からがん幹細胞が生まれる」とみしており、新しい治療法につなげるため、がん幹細胞の働きを抑える方法の検討を始めた。

成果は10月1日から横浜市で始まる日本癌学会学術総会で発表する。